

近年激変する暮らし・産業・社会

『人が暮らし易い社会と産業構造』を考え、
『三方よしの未来像』を描く！

検討のキーワード：

1. 人口変化・グローバル化・地域創生・DX化・GX化・政策などが暮らし、産業、社会に与える効果と影響を検討する。
2. 人を真ん中に置いて、三方よしの未来像を描く。

リサーチデザイン研究所
平 野 正 夫

思わすは

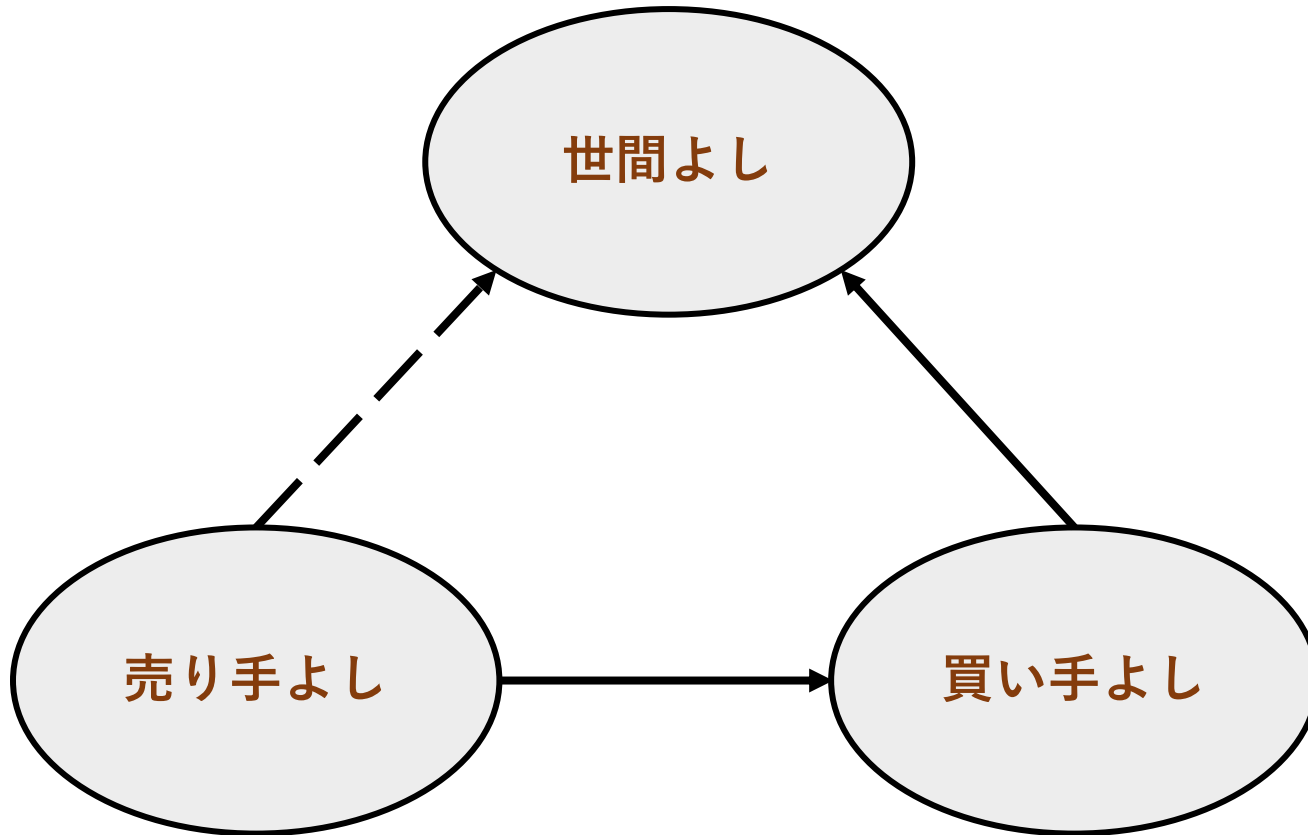
見えないう来来

描りこみ

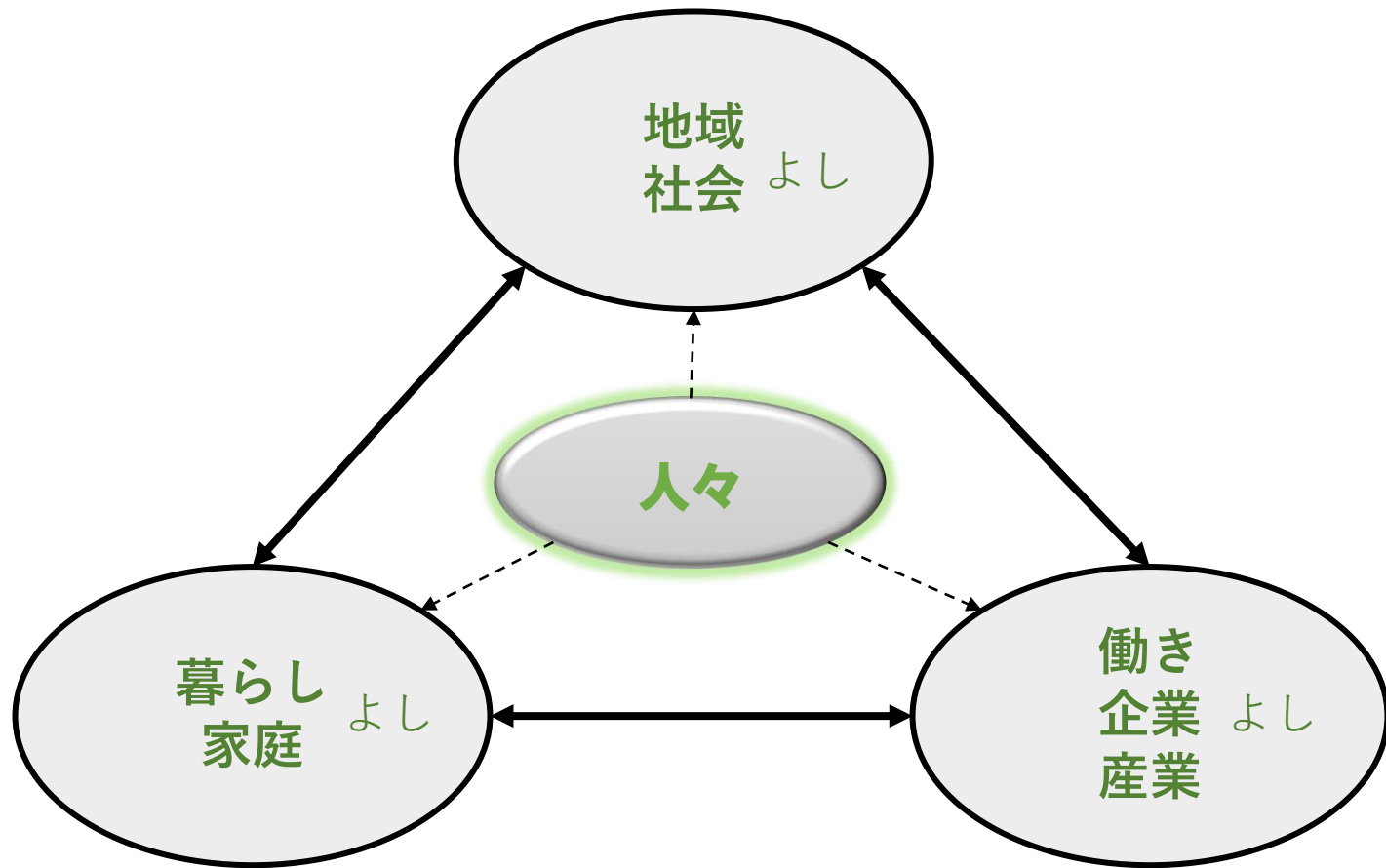
見えてくる

理想郷

古くから滋賀に伝わる「近江商人の三方よし」



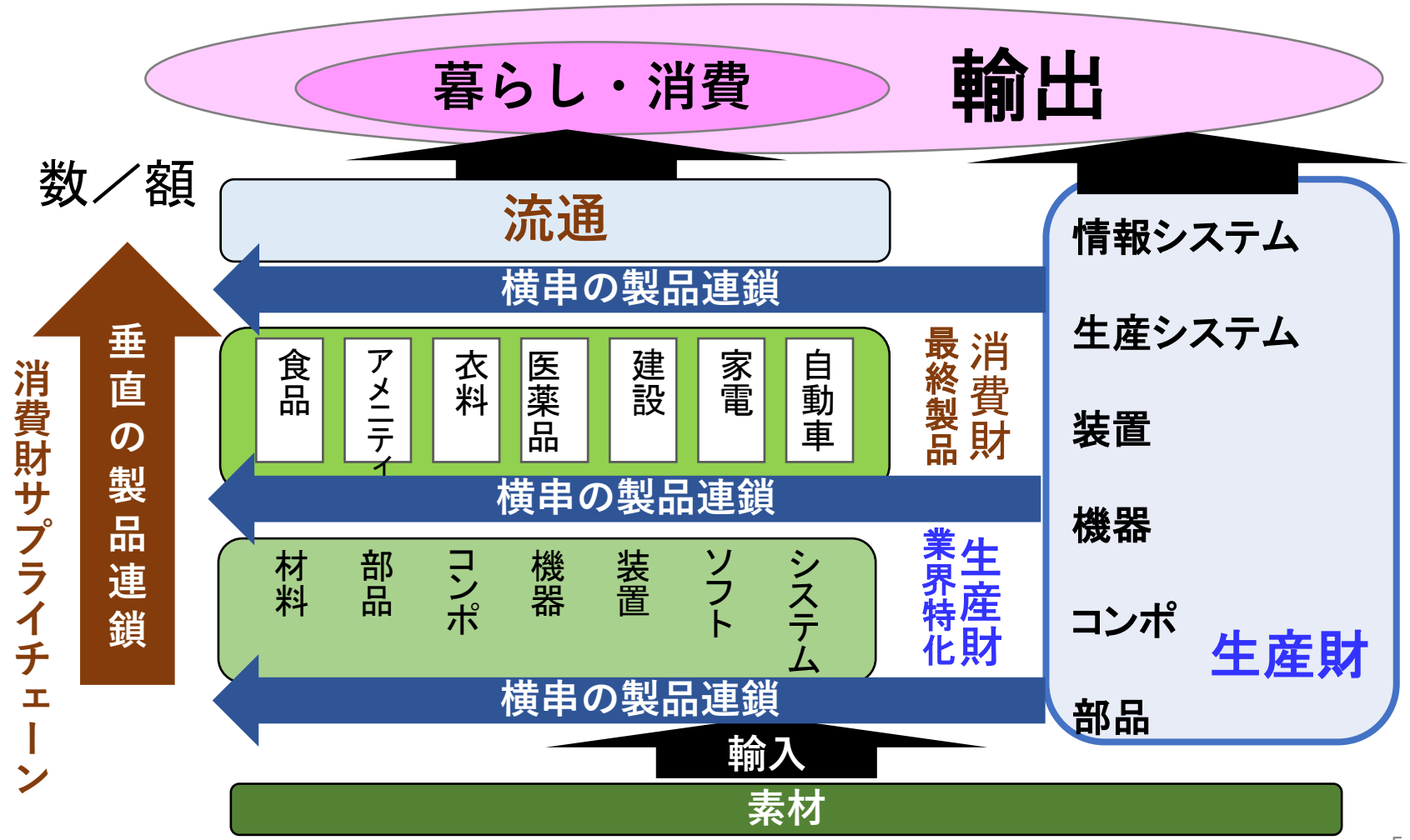
資本主義経済下の三方よし



Japan as No.1時代のモノづくり

「産業構造を俯瞰する」

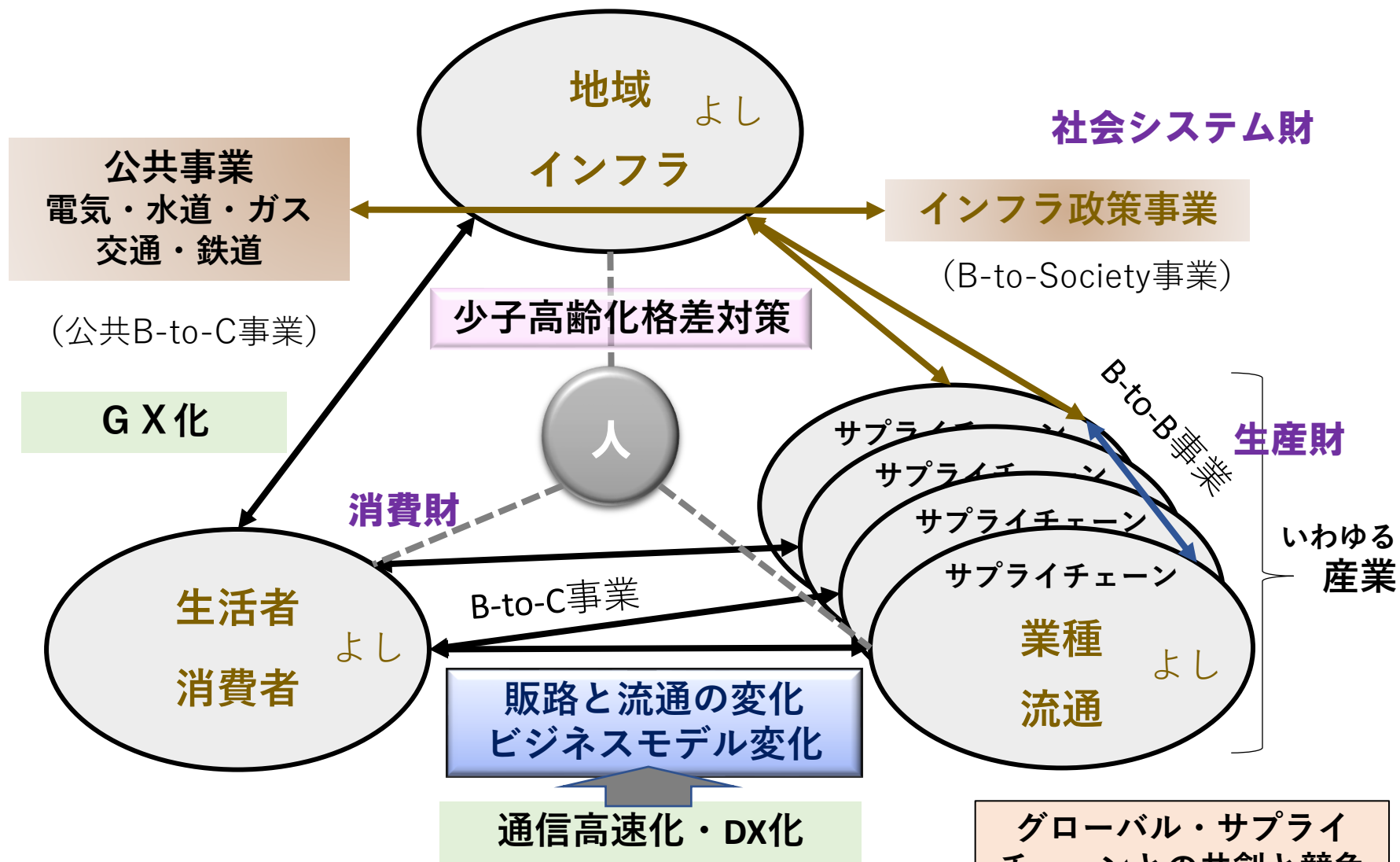
- 消費財（タテ）と生産財（ヨコ）の連鎖 低価格盲追・共倒れを脱皮したい！
- 流通・消費財の伸び・今後の変化、客から遠い輸出型消費財！



「激変する三方よし」へ安心の楔を打つ「近未来創生の視座」

”人口変化・グローバル化・地域創生・DX化・GX化・政策の影響を受ける三方よし”

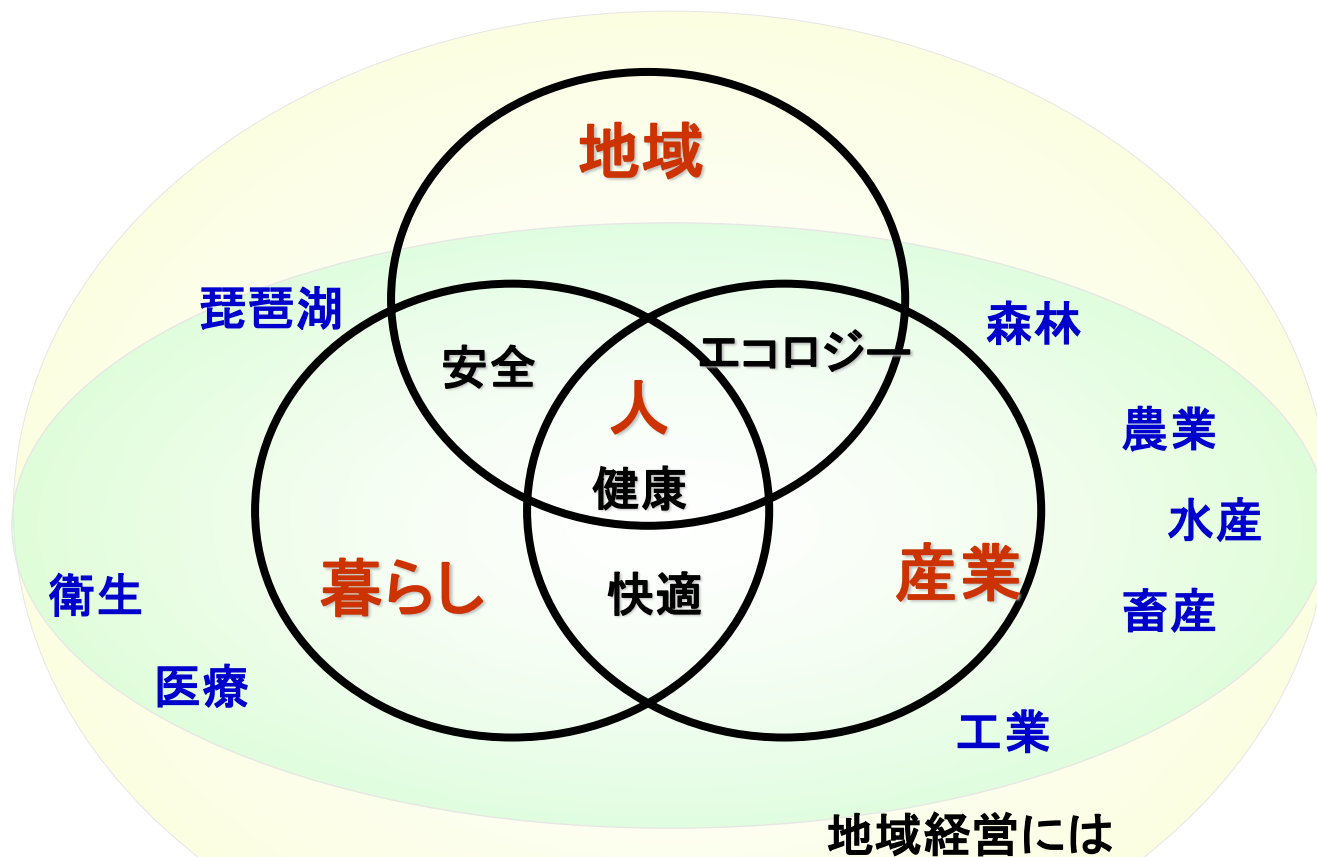
“人を真ん中に置いた未来創生”



まず、製品と産業構造を正確に把握する。

注：約18年前の資料

■地域・暮らし・産業の真ん中に「人」がいる



公設試の研究

人・自然・企業が対象

大学の研究・教育

「社会・暮らし・産業」が調和する科学技術研究
による「地域未来づくり」が必要

注：約18年前の資料

将来のあるべき滋賀へ向けて、県民や企業が結集できる方向は？

あるべき

環境

例えば、

琵琶湖

強み・滋賀のシンボル

一丸となってめざす「あるべき状態」

滋賀の「安全・持続・発展」

「社会・暮らし・産業」の三方よし

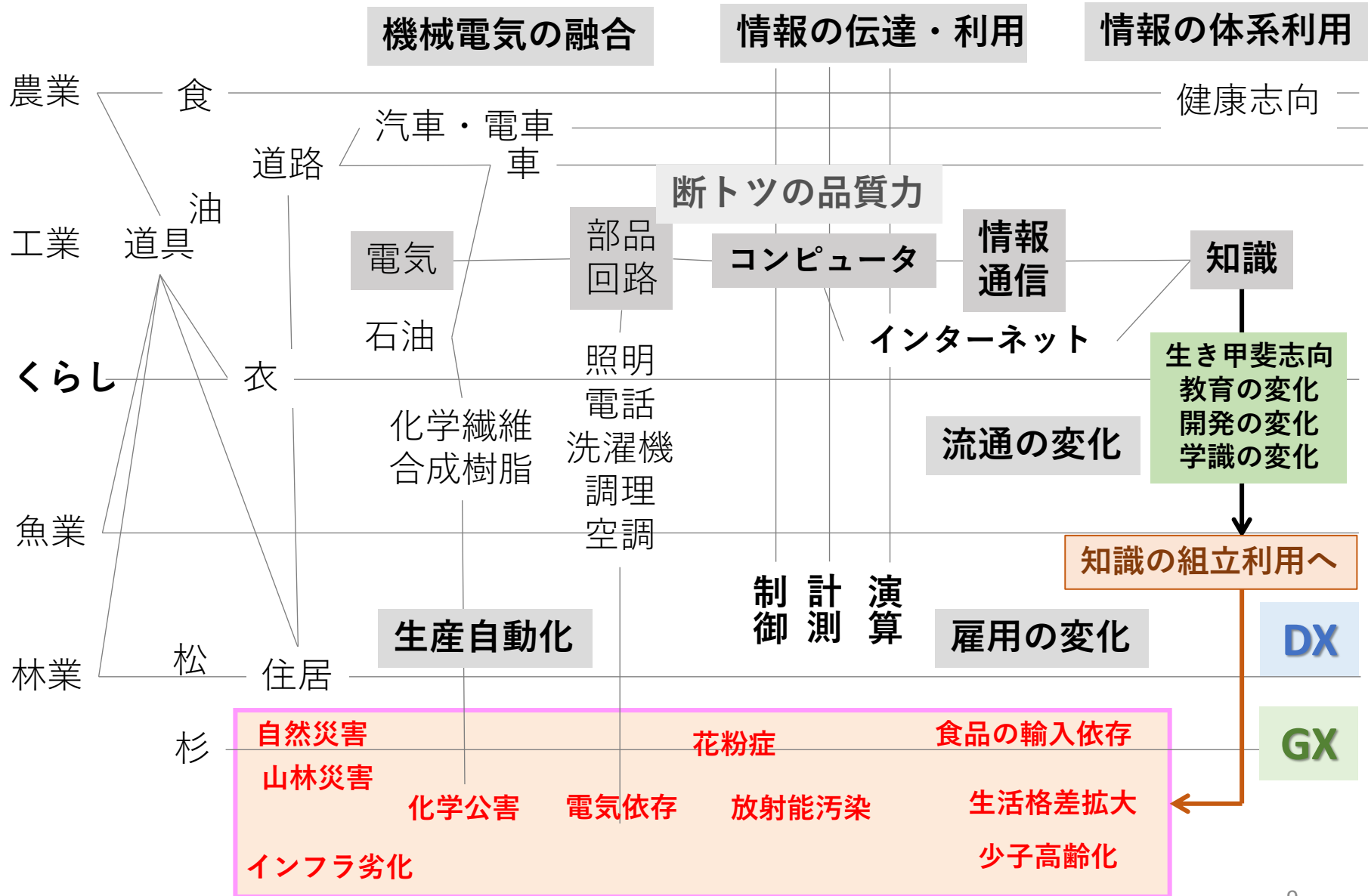
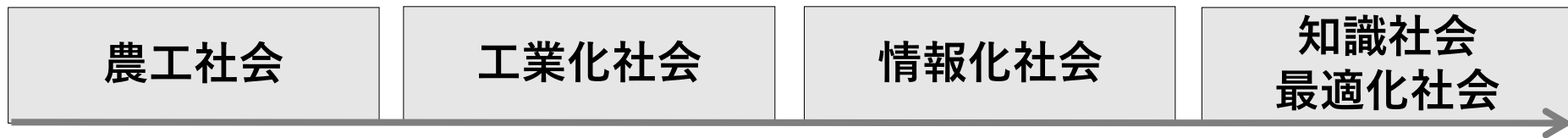
- ・「社会・暮らし・産業」の調和
- ・「健康、安全・エコロジー・快適、持続」
- ・滋賀ブランドの構築

そのために、科学技術により実現を加速する

産業集積はドイツ型

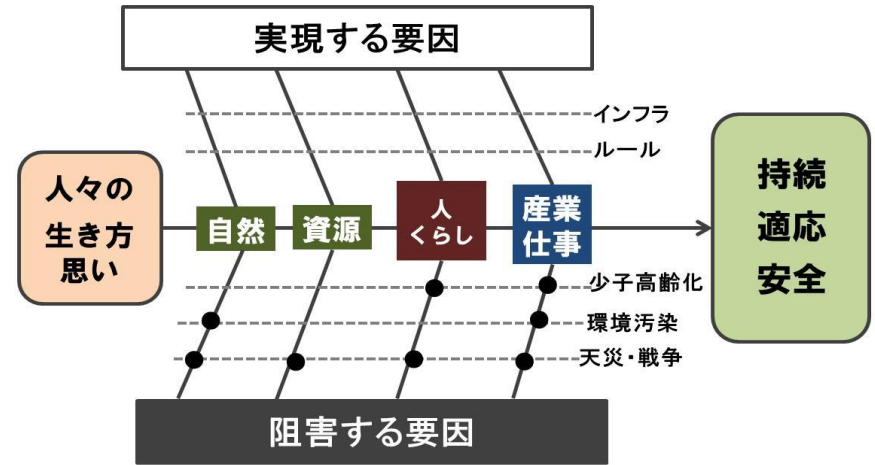
古くから東西のHUBとして活躍

強みの発揮とビジョンへ向けてギアチェンジする！





幸せな家庭には共通性があり、
不幸な家庭には共通性がなく、突然やってくる。
(アンナ・カレーニナ)

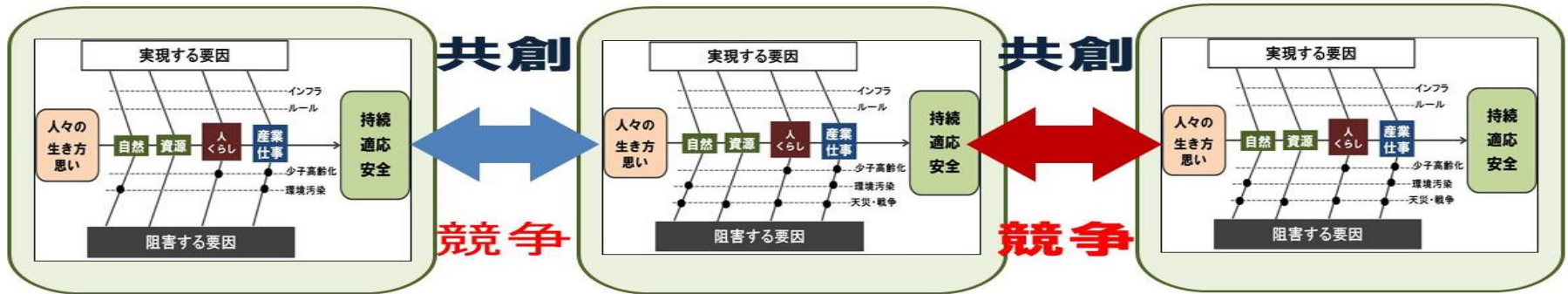


天災は地球のノイズ、戦争は国家のエゴ。(私見)

地域

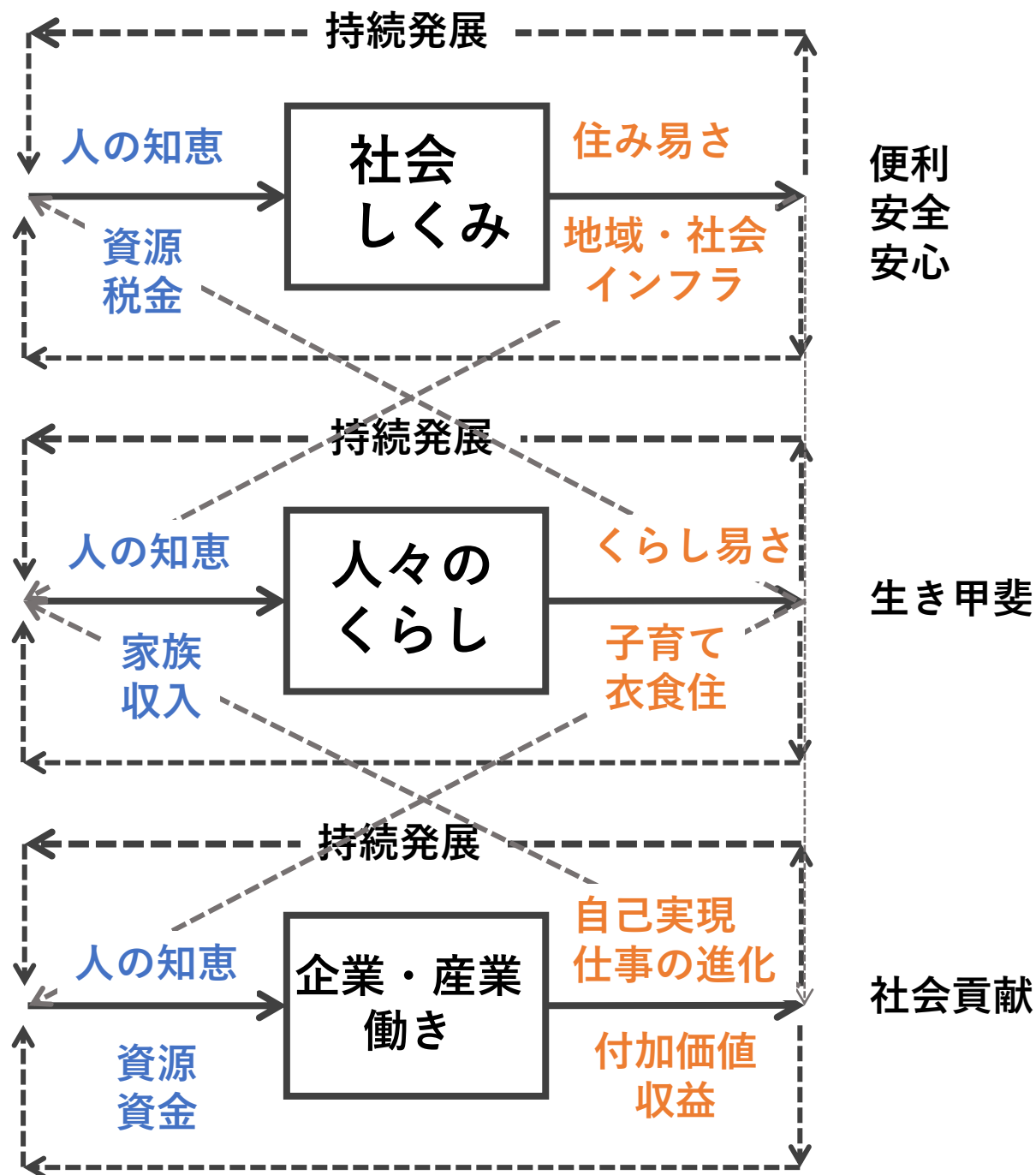
国

世界



手段の繋がりを、目的の繋がりに変えていきたい！

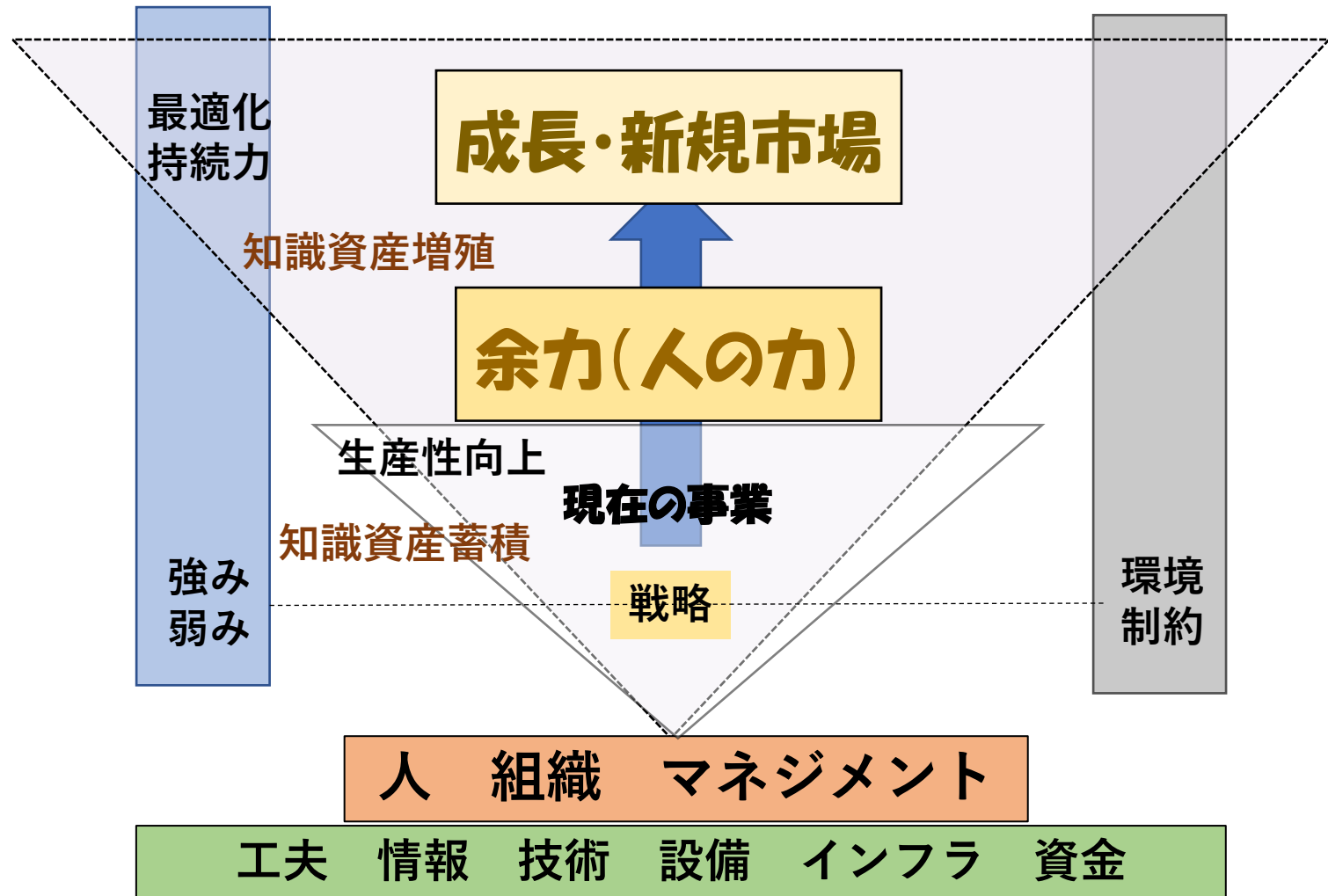
循環・調和・持続する発展



改善して、余力を作ってこそ、成長の素ができる

最適化はゴールではない、余力(人の力)を作るステップである

収益⇒開発投資⇒製品の機能/魅力⇒顧客の信頼/期待⇒進化/三方よしの継続



「材料・設計・工程の調和」による技術化

「材料・設計・工程の調和」は、“技術の三方よし”

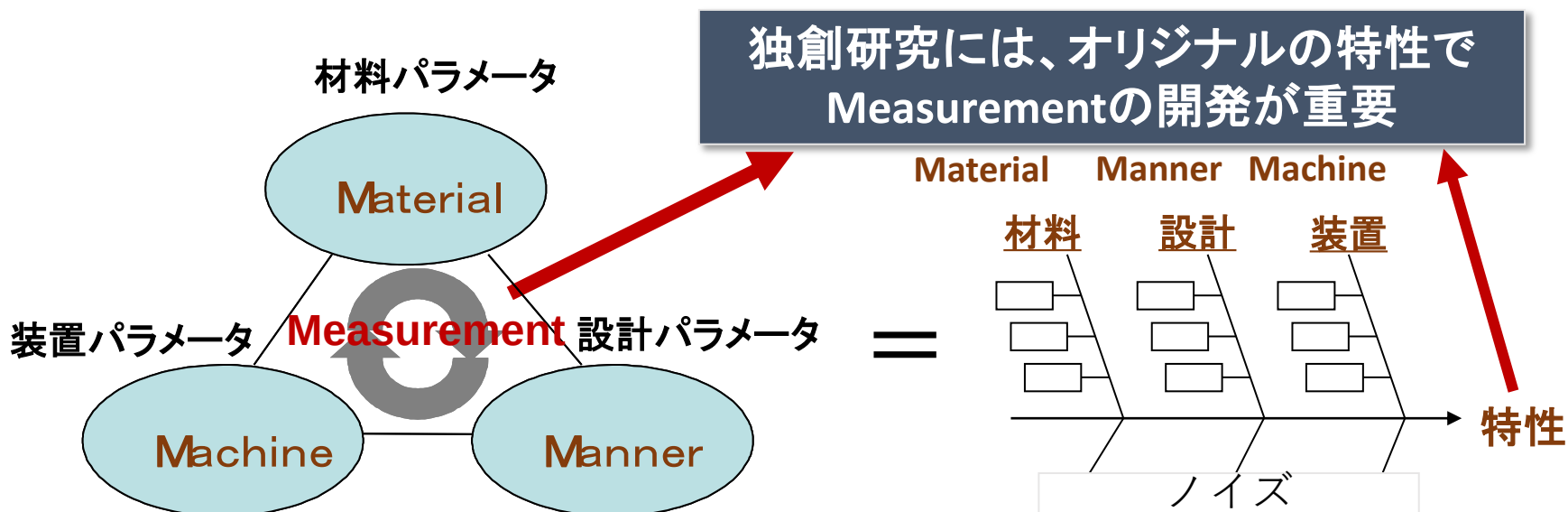
Trinity Engineering (IEの変形) の活用

理論:

- 全ての技術システムは、「3 Mの組合せ」である・・・3 Mの連立方程式を解く要領で使う
 - 研究を生産へ円滑につなぐ／生設一体のために、3 Mを調和的に進化させる
- 一般法則 **Material>Manner>Machine**の順に効果・副作用が大きい

応用 (変えかた・手順):

- 3 Mの調和的進化・・・研究・設計はMaterialとManner, 生産はMachineが手の内にある
- 効果的改善の手順「**Man**のばらつき排除→**Machine**(工程改善)→ MannerとMaterial」の順



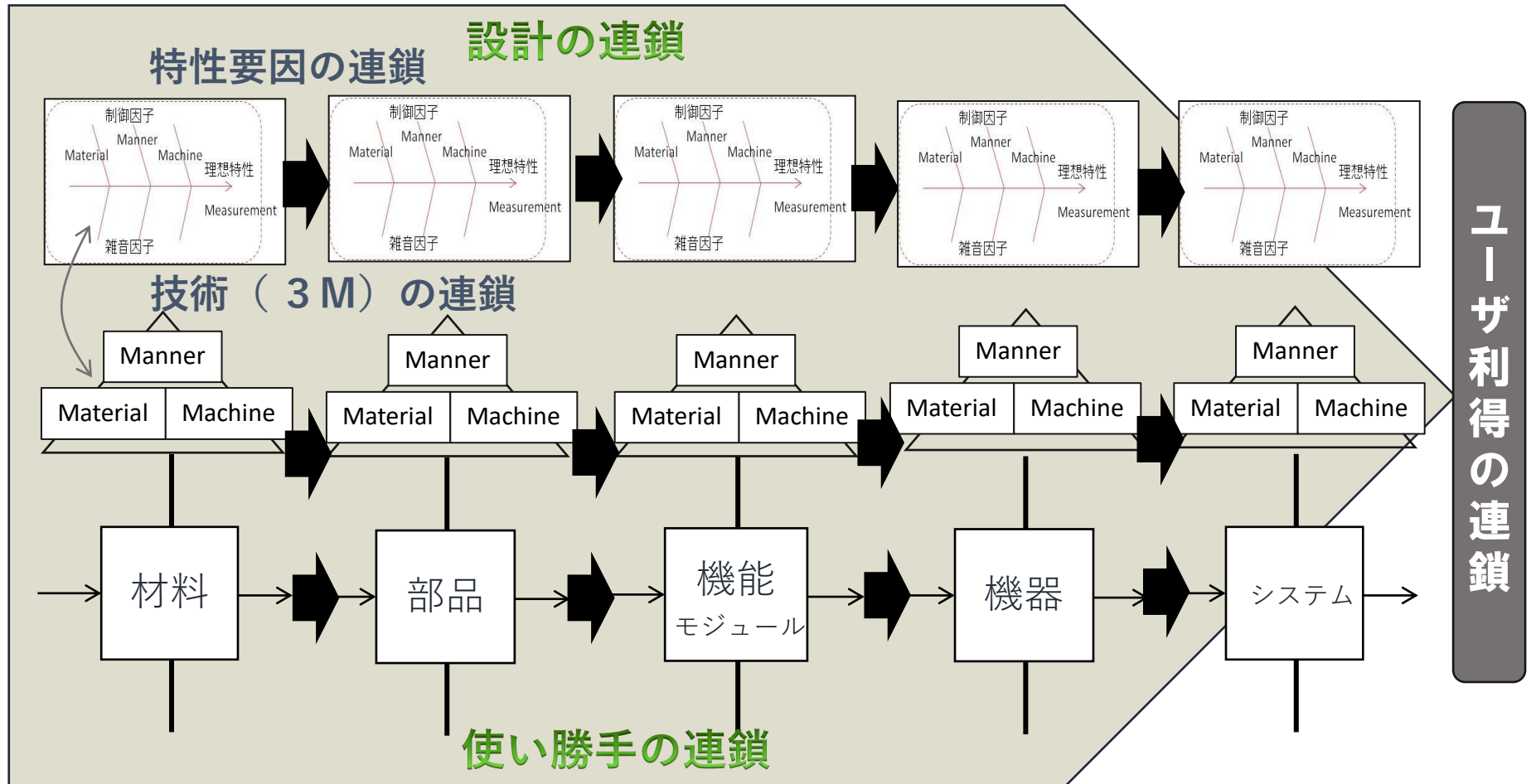
3Mの調和 (考え方) + 機能 (考え方) で企画 → 3Mの強制発想で仮説の偏りを防ぐ

M-Trinity Engineering

技術調達・共創の戦略・・・『使い勝手の連鎖と設計の連鎖を創る』

～イノベーションは、川上から川下への『ユーザ利得の連鎖』があってこそ実現する～

- ◆一言で製品と言っても、階層がある。製品階層は「使い勝手」と「使い勝手」で連鎖する。
- ◆1社で製品は作れない、前後階層の製品（ビジネスプロセス）と巧妙に連鎖せよ。



⇒自社製品の前後階層と連携する『製品の味付け』が必要！